

日本共産党羽村市議団が市内小中学校を訪問

日本共産党羽村市議団は8月9日から17日まで、羽村市立の小学校7校、中学校3校を訪れ、校長（副校長）先生から話をうかがい、意見交換など行いました。

今年行われた都の一斉学力テストについて、市議団は、「一斉学力テストと成績公表は弊害が多い。子どもたちに人格の完成をふくめ基礎的学力を向上させることは重要だが、成績の比較や競争などにふりまわされるべきでない」との立場を明らかにした上で、校長先生の考えや学校としての取り組みについてうかがいました。

どの学校も羽村市の「成績」が低かったことについての、保護者からの苦情などはなかったそうです。学力テスト対策ということでなく、学力の向上のために、授業の改善などにとりくんでいるとのことでした。

どの学校でも、教職員はよくがんばっているとの評価でした。しかし、以前にくらべ、家庭崩壊など様々な要因が子どもにも影響を与え、学級運営が難しくなっている。教職員もぎりぎりのところでがんばっている。持ち時間を減らす、学習サポーターを増やす、学級定員を減らすなどの対策が必要とのことでした。

また、古くなった校舎、体育館などの改修、建てかえを早くしてほしいなどの要望もいただきました。



羽村第二中学校で校長先生と懇談

羽村民報

2007年8月26日 No. 861
発行 羽村民報編集委員会
責任者 野崎 衷

日本共産党羽村市委員会事務所
電話 579-2132 FAX 579-2106
<http://www.jcphamura.org>

無料法律相談

9月11日（火）午後1時半～
羽村市委員会事務所 *要予約
中原まさゆき TEL 554-1163
市川 えい子 TEL 554-1140
鈴木たくや 080-1058-9450



一斉学力テストについて・都教組の声明

東京都教職員組合は今年1月16日に東京都教育委員会が実施した小学五年生と中学二年生全員を対象にした「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（以下「一斉学力テスト」と「問題解決能力調査」について、「子どもをますます競争に追い立てるものでその廃止を強く求める」と声明を発表しています。その大要を紹介します。

私たちは「一斉学力テスト」の実施と「成績」（平均正答率）の公表が子ども・学校・地域間の競争を煽り、子どもの人間発達や学校教育に取り返しのつかない歪みをつくり出すことを指摘し、その実施と「成績」公表の中止を一貫して強く求めてきた。

これまでの「一斉学力テスト」の実施と、区市ごとの「成績」公表は、私たちが心配したとおりの重大で深刻な問題を子どもと教育に持ち込んでいる。

東京の「一斉学力テスト」と「成績」公表が「学校選択の自由制」のもとで入学者ゼロの学校をつくり出し、重大な教育問題になっている。学校現場では「一斉学力テスト」とかかわって、小学五年生と中学二年生の冬休みの宿題が急に増えたり、三学期に入ってからテスト対策用のプリントばかりやっている学校が現れたり、「一斉学力テスト」のための模擬テストがおこなわれたり、事前にテスト問題が漏れているなどの噂が飛び交ったり、子どもと学校教育にいつそうの歪みと混乱をもたらしている。また、仲間から「お前の学校は成績最下位だ」、「おまえがいると成績が下がる」などからかわれ、深く心を傷つけられた子どもも少なくない。「一斉学力テスト」の「成績」公表については、中学校長会からも強い反対の意見が表明されている。

さらには、これまで出題された問題のなかには、問題そのものが不適當・不適切であったり、どれが答えか首を傾げざるを得ない問題が多々見受けられることが研究者や現場教職員から指摘されている。

深刻化する学力問題の主要な原因は学習指導要領と教育諸政策にある。

都教委が、学力向上のためにやるべきことは、こうした学習指導要領の押しつけをやめ、学校で創意工夫を重ねながらとりくまれている教育実践を励まし、いつそう豊かにするための教育施策、たとえば三十人学級を東京でも実施することである。

私たちは、あらためて東京都が「一斉学力テスト」と「問題解決能力調査」を実施したことに強く抗議し、その廃止を強く要求する。私たちは、子どもと学校・地域を非情な競争に追い立てる区市ごとの「成績」公表の中止を都教委に強く求める。また、区市が学校ごとの「成績」公表をやらないよう、各区市教育委員会に強く求める。

私たちは、どの子ども勉強がよくわかり、人間として大切にされる学校をつくるために、すべての教職員・父母・都民と力を合わせ、いつそう奮闘することをあらためて表明する。